

注意事項

1. 試験問題の数は30問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題にはaからeまでの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例1)では一つ、(例2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

(例1) 101 県庁所在地
はどれか。

- a 栃木市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例2) 102 県庁所在地はどれか。
2つ選べ。

- a 宇都宮市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例1)の正解は「c」であるから答案用紙の

101 a b c d e のうち c をマークして

101 a b c d e とすればよい。

(例2)の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の

102 a b c d e のうち a と c をマークして

102 a b c d e とすればよい。

(2) 答案の作成にはHBの鉛筆を使用し、濃くマークすること。

良い解答の例…… (濃くマークすること。)

悪い解答の例…… (解答したことにならない。)

(3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり「」のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。

(4) ア.(例1)の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。

イ.(例2)の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。

(5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

1 ある町で下痢や腹痛を訴える者が相次ぎ、住民の半数以上にのぼった。そのすべてが町営水道水を飲用していたが、煮沸した水の飲用者に症状はみられなかった。末端の給水栓からは衛生上必要な遊離残留塩素が検出された。

下痢、腹痛の原因として最も可能性の高いのはどれか。

- a 鉛
- b トリハロメタン
- c クリプトスポリジウム
- d 腸チフス菌
- e 病原性大腸菌

2 32歳の女性。0経妊0経産。妊娠28週の妊婦健康診査まで異常は認めなかった。妊娠30週の妊婦健康診査で血圧150/100 mmHg。尿蛋白1+。下肢の浮腫1+であった。入院して、安静と食事療法とを行ったが、症状は改善しなかった。妊娠34週に血圧180/120 mmHg。尿蛋白2+。下肢の浮腫2+となった。また、2～3分間隔の子宮収縮を自覚した。この時の内診所見では、先進部は後頭部で子宮口は2 cm 開大、位置後方で、頸管は硬、展退30%、SP-2であった。超音波断層検査で児の推定体重は1,400 gであった。この時点での胎児心拍数陣痛図(別冊No. 1)を別に示す。

正しいのはどれか。

- a 高血圧は軽症に分類される。
- b 子宮頸管は熟化している。
- c 胎児発育は週数相当である。
- d 児頭が圧迫されている。
- e 急遂分娩が必要である。

別冊 No. 1 図

3 30歳の2回経産婦。分娩は2回とも児頭骨盤不均衡(CPD)のため帝王切開を受けた。妊娠30週3日で少量の性器出血があり、近医から紹介され入院した。内診所見では子宮口未開大。超音波断層検査では胎児の推定体重は1,500gである。入院直後の胎児心拍数陣痛図(別冊No. 2A)とMRI(別冊No. 2B)とを別に示す。

考えられるのはどれか。

- a 切迫早産
- b 常位胎盤早期剥離
- c 癒着胎盤
- d 子宮内胎児発育遅延
- e 胎児低酸素血症

別冊
No. 2 図A、写真B

4 25歳の女性。最近、右手の使いにくさと両上肢のしびれ感とがあり来院した。数年前から後頸部の痛みを自覚していた。頸椎MRIのT₁強調矢状断像(別冊No. 3)を別に示す。

この患者でみられないのはどれか。

- a 上肢の痛覚低下
- b 手指骨間筋の萎縮
- c 下肢の振動覚低下
- d 膝蓋腱反射の亢進
- e 上腕二頭筋反射の低下

別冊
No. 3 写真

5 32歳の女性。20歳ころから年に数回、側頭部に拍動性頭痛があった。今朝、突然左半分の視野にキラキラ光る歯車様のものが出現して15分持続し消失した。その後10分程して側頭部を中心に拍動性の激しい頭痛が出現し来院した。身体所見では神経学的に異常は認めない。頭部単純CTに異常はない。

適切な治療薬はどれか。

- a 抗けいれん薬
- b 筋弛緩薬
- c 抗血小板薬
- d トリプタン薬
- e 副腎皮質ステロイド薬

6 25歳の未婚女性。過量服薬のため救急車で搬送された。これまでも慢性の抑うつ状態の中で死にたいとしきりに訴え、手首を切るなどの自傷行為や家族の目の前で車に飛び込もうとする行動がみられていた。こうした衝動行為の後にはイライラ感が減少するという。気分がよいときは相手には極端な好意を寄せてつきあうかと思うと、些細な行き違いから急に怒りだしては相手をひどく責めることがたびたびあった。また、男女関係ではこれまで同棲しては別れるということを3回繰り返し、仕事も転職を繰り返して、現在は無職である。会話は普通にできるが、家庭内葛藤が強い。

最も考えられるのはどれか。

- a パニック障害
- b 境界性人格障害
- c 気分循環性障害
- d 気分変調性障害
- e 統合失調感情障害

7 27歳の男性。自転車で走行中に転倒して胸部を打撲後に胸痛が増強したため来院した。呼吸数16/分。脈拍84/分、整。血圧128/72 mmHg。血液所見：赤血球467万、Hb 14.4 g/dl、白血球7,900。胸部エックス線写真(別冊No. 4A)と胸部単純CT(別冊No. 4B)とを別に示す。

診断に最も有用なのはどれか。

- a 動脈血ガス分析
- b 心電図
- c 心エコー検査
- d 肺血流シンチグラム
- e 気管支鏡検査

別冊
No. 4 写真A、B

8 70歳の男性。3か月前から咳嗽、喀痰および発熱があり来院した。胸部エックス線写真(別冊No. 5A)、右上葉中間幹分岐部の気管支鏡写真(別冊No. 5B)および気管支鏡による病巣の生検組織のH-E染色標本(別冊No. 5C)を別に示す。

診断はどれか。

- a 肺小細胞癌
- b 肺扁平上皮癌
- c Wegener肉芽腫症
- d 肺結核
- e 肺真菌症

別冊
No. 5 写真A、B、C

9 42歳の女性。開腹手術に対する麻酔のために、チオペンタールで導入し、ベクロニウムを投与した。気管挿管したところ、全身発赤、換気困難および血圧低下が出現した。

換気困難の原因はどれか。2つ選べ。

- a 筋強直
- b 喉頭けいれん
- c 気管支けいれん
- d 気道浮腫
- e 気道内異物

10 17歳の男子。バイクで走行中に乗用車と衝突し20分後に救急車で来院した。来院時所見：呼吸数32/分。脈拍132/分、整。血圧98/52 mmHg。口唇のチアノーゼと右下腿の開放骨折とを認める。酸素5l/分をマスクで投与し、末梢静脈ラインを確保した。胸部エックス線写真(別冊No. 6)を別に示す。

次に行うべき処置はどれか。

- a 心嚢ドレナージ
- b 胸腔ドレナージ
- c 中心静脈カテーテル挿入
- d マスク・バッグによる換気
- e 右下腿の開放骨折のデブリドマン

別冊
No. 6 写真

11 55歳の男性。スポーツジムで筋力トレーニング中に突然意識を消失し、全身けいれんがみられたため救急車で搬入された。救急車内での心電図モニターの波形(別冊No. 7)を別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a リドカイン静注
- b カテコラミン静注
- c 気管挿管
- d 電氣的除細動
- e ペースメーカー挿入

別冊
No. 7 図

12 68歳の女性。朝食摂取後から次第に増強する上腹部痛が出現し、夕方には発熱と軽度の意識混濁とが出現したため救急車で搬入された。胆嚢結石と胃潰瘍で近医に通院中であった。来院時、血圧86/50 mmHg。軽度の意識混濁がある。皮膚は温かい。肝濁音界は存在するが、右肋骨弓下に圧痛と抵抗とを認める。血液所見：赤血球460万、Hb 14.4 g/dl、白血球15,000、血小板5万。血清生化学所見：総ビリルビン6.5 mg/dl、直接ビリルビン4.0 mg/dl、AST 140単位、ALT 130単位、アルカリホスファターゼ976単位(基準260以下)、アミラーゼ1,200単位(基準37~160)。

最も考えられるのはどれか。

- a 肝硬変
- b 劇症肝炎
- c 胃潰瘍穿孔
- d 急性出血性胃炎
- e 急性化膿性胆管炎

13 66歳の男性。朝から腹痛が出現したため来院した。開腹歴はない。2日前から排便・排ガスがない。来院時の腹部エックス線単純写真(別冊No. 8)を別に示す。

次に行うべき検査はどれか。

- a 胃内視鏡
- b 小腸造影
- c 腹部大動脈造影
- d 腰椎MRI
- e 大腸内視鏡

別冊
No. 8 写真

14 53歳の男性。3日前から背部に放散する心窩部痛があり来院した。30年間ほぼ毎日、日本酒4合程度の飲酒歴がある。3か月前から軟便があり、4kgの体重減少がある。身長165cm、体重56kg。上腹部に圧痛を認める。血液所見：赤血球472万、Hb 12.5 g/dl、白血球8,300、血小板26万。血清生化学所見：総蛋白5.9 g/dl、アルブミン2.8 g/dl、尿素窒素22 mg/dl、総ビリルビン1.0 mg/dl、AST 68単位、ALT 55単位、アルカリホスファターゼ330単位(基準260以下)、 γ -GTP 130単位(基準8~50)、アミラーゼ411単位(基準37~160)。腹部造影CT(別冊No. 9)を別に示す。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 糞便中の脂肪排泄量は増加している。
- b 耐糖能低下を合併することが多い。
- c 高カルシウム血症がみられる。
- d 約30%に膵癌を合併する。
- e 治療は膵全摘術である。

別冊
No. 9 写真

15 45歳の男性。健康診断の腹部超音波検査で肝腫瘍を指摘された。腹部造影CT(別冊No. 10)を別に示す。

腫瘍の占拠部位はどれか。

- a S3
- b S4
- c S6
- d S7
- e S8

別冊
No. 10 写真

16 32歳の女性。妊娠26週。2週間前から下腿に点状出血があり来院した。血液所見：赤血球420万、Hb 11.9 g/dl、Ht 38%、網赤血球10%、白血球5,300、血小板2.2万、プロトロンビン時間11.5秒(基準対照11.3)、APTT 32.0秒(基準対照32.2)、フィブリノゲン297 mg/dl(基準200~400)、血清FDP $8 \mu\text{g/ml}$ (基準10以下)。骨髓血塗抹May-Giemsa染色標本(別冊No. 11)を別に示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 急性骨髄性白血病
- b 血栓性血小板減少性紫斑病
- c 再生不良性貧血
- d 特発性血小板減少性紫斑病
- e 播種性血管内凝固症候群

別冊
No. 11 写真

17 55歳の男性。1か月前から労作時の息切れと舌の痛みとを自覚し、5日前から歩行障害も出現したため来院した。8年前に胃全摘術を受けた。眼瞼結膜に貧血を認め、眼球結膜に軽度の黄疸を認める。Romberg 徴候陽性。血液所見：赤血球142万、Hb 6.5 g/dl、Ht 19%、網赤血球14.0%、白血球3,100(桿状核好中球4%、分葉核好中球56%、好酸球2%、単球3%、リンパ球35%)、血小板8.2万。血清生化学所見：総ビリルビン3.3 mg/dl、直接ビリルビン0.9 mg/dl、AST 45単位、ALT 34単位、LDH 2,100単位(基準176~353)。

この患者でみられないのはどれか。

- a 血清ビタミンB₁₂低下
- b 抗内因子抗体陽性
- c 好中球の核の過分葉
- d 骨髄中の赤芽球増加
- e Howell-Jolly 小体

18 55歳の男性。3日前から発熱と1日10回以上の水様性下痢とが持続している。

全身の脱力感と立ちくらみとがあり、歩行が困難となったため来院した。

低下していると考えられる血液検査所見はどれか。

- a ヘマトクリット
- b 尿酸
- c 尿素窒素
- d 重炭酸イオン
- e カルシウム

19 18歳の女子。1か月前から微熱と関節痛とが続くため来院した。上肢で測定した血圧は右128/70 mmHg、左96/56 mmHgである。左上胸部、頸部両側および上腹部に血管雑音を聴取する。尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤沈50 mm/1時間、赤血球420万、白血球10,200。血清生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、アルブミン3.6 g/dl、尿素窒素14 mg/dl、クレアチニン0.5 mg/dl。CRP 5.2 mg/dl。

最も考えられるのはどれか。

- a 結節性多発動脈炎
- b Wegener 肉芽腫症
- c 側頭動脈炎
- d 高安病
- e Behçet 病

20 28歳の男性。3日前から、顔面と下腿とに浮腫があり来院した。尿所見：蛋白4+、潜血(-)。血清生化学所見：アルブミン2.2 g/dl、クレアチニン1.2 mg/dl。腎生検 PAS 染色標本(別冊No. 12)を別に示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 尿沈渣異常を認めることは少ない。
- b 尿蛋白の選択性は高い。
- c 補体の低下を認めることが多い。
- d ステロイド投与によって尿蛋白は減少しやすい。
- e 腎機能の予後は悪い。

別冊 No. 12 写真

21 53歳の女性。10年前から糖尿病を指摘されていた。尿失禁を主訴として来院した。あまり尿意を感じないが常に失禁している。血清クレアチニン0.7 mg/dl。静脈性尿路造影で軽度の両側水腎症を認める。超音波検査で膀胱内に多量の残尿を認める。

適切な治療法はどれか。

- a 抗コリン薬投与
- b 間欠的自己導尿
- c 腹圧排尿
- d 両側腎瘻造設
- e 尿失禁根治的手術

22 6歳の男児。入学時の健康診断で心電図の異常を指摘され来院した。生来元気で、易感染性もなかった。聴診で、胸骨左縁第2肋間に最強点を有する3/6度の駆出性収縮期雑音と胸骨左縁下部に2/6度の拡張期ランブルとを聴取する。II音は固定性に分裂している。胸部エックス線写真では心胸郭比55%で、左第2弓の突出があり、肺血流の増加を認める。心電図(別冊No. 13)を別に示す。

この患児について正しいのはどれか。

- a 学校での運動を制限する。
- b 抜歯の際に感染性心内膜炎の予防を行う。
- c 強心薬の内服を開始する。
- d 待期的に根治手術を行う。
- e 緊急に根治手術を行う。

別冊
No. 13 図

23 3か月の乳児。咳嗽と呼吸困難とを主訴に来院した。3日前から鼻汁と咳とが続いていたが、発熱はなく元気はよかった。本日夕方から咳がひどくなり、ぜーぜーと苦しそうになってきた。体温37.2℃。呼吸数60/分。心拍数140/分。陥没呼吸、鼻翼呼吸および口唇周囲のチアノーゼを認める。両側肺に著明な呼気性喘鳴を聴取する。心雑音は聴取しない。肝を右肋骨弓下に2 cm 触知する。経皮的酸素飽和度92%。

最も考えられるのはどれか。

- a 喉頭軟化症
- b クループ症候群
- c 急性細気管支炎
- d 気管支喘息
- e うっ血性心不全

24 生後4週の男児。2週前から嘔吐がみられ、回数もしだいに増え、最近ではミルクを飲むたびに噴水様に嘔吐するので来院した。最終排尿は12時間前であった。出生体重3,200 g。Apgarスコア10点(1分)。体重2,900 g。皮膚は乾燥し、大泉門は陥凹している。上腹部に蠕動波が見られ、触診では右上腹部にオリーブ様の腫瘤を触知する。

この患児で考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 10%以上の脱水がある。
- b 超音波検査でtarget signを認める。
- c 血液ガス分析でアシドーシスがある。
- d 高K血症がある。
- e 低Cl血症がある。

25 7か月の乳児。嘔吐と血便とを主訴に来院した。昨晚から不機嫌となり、嘔吐と軽度の発熱とが出現した。時々、火がついたように泣き、来院途中で血便があった。腹部触診で右上腹部に腫瘤を触知する。軽度の脱水があり、輸液を開始した。

適切な処置はどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 制吐薬投与
- c 注腸造影
- d 緊急開腹手術
- e 輸血

26 63歳の男性。複視を主訴に来院した。4か月前から少量の鼻出血を繰り返していた。2か月前から右難聴と鼻閉とを自覚していたが放置していた。最近になり右方視での複視を認めたため来院した。右上頸部に直径3cmの硬い腫瘤を触知する。インピーダンスオージオメトリで左耳はAタイプ、右耳はBタイプである。副鼻腔単純CT(別冊No. 14)を別に示す。

この患者で正しいのはどれか。

- a 鼻閉は副鼻腔炎による。
- b 嗅覚低下を認める。
- c 複視は外転神経障害による。
- d 閉眼不全を認める。
- e 耳管の開放症を認める。

別冊
No. 14 写真

27 12歳の女児。2週間前から右眼の視力の変動があり来院した。右眼の前眼部写真(別冊No. 15)を別に示す。

考えられるのはどれか。

- a Hurler 症候群
- b Marfan 症候群
- c Sturge-Weber 症候群
- d von Recklinghausen 病
- e Wilson 病

別冊
No. 15 写真

28 56歳の女性。昨夜から右眼にゴミのようなものが動いて見えるので来院した。5年前から口渇があったが、健康診査は受けていなかった。視力は右0.3(矯正不能)、左1.0(矯正不能)。右眼底写真(別冊No. 16)を別に示す。

診断に有用でないのはどれか。2つ選べ。

- a 蛍光眼底造影
- b 血清生化学検査
- c 頭部MRI撮影
- d 網膜電図(ERG)
- e 尿検査

別冊
No. 16 写真

29 21歳の女性。解熱薬の内服後、右前腕内側に境界明瞭な暗赤色斑が出現したため来院した。以前にも同じ薬を内服し同様の症状がみられた。右前腕の写真(別冊No. 17)を別に示す。

この疾患で誤っているのはどれか。

- a 同一部位に繰り返し生じる。
- b 皮膚粘膜移行部に生じやすい。
- c 水疱を生じることがある。
- d 軽快後に色素沈着を生じる。
- e 視力障害を伴う。

別 冊
No. 17 写 真

30 30歳の男性。3か月前から右足第4趾間部に鱗屑が生じ、痒みを伴っている。趾間部の写真(別冊No. 18)を別に示す。

行うべき検査はどれか。

- a 苛性カリ鏡検法
- b Tzanck 試験
- c 細菌培養検査
- d 貼付試験
- e 皮内試験

別 冊
No. 18 写 真

◎ 下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受験番号	氏名(楷書で書くこと)